

## 「食品科学教育協議会会誌」執筆規定

### 1. はじめに

この執筆規定は、「食品科学教育協議会会誌」への投稿原稿を執筆するさいの指針として作成したものである。執筆にあたっては投稿規定とともによく読んで、体裁の整った理解しやすい論文を作成するように努めていただきたい。

### 2. 投稿論文

#### 2. 1 一般的注意

用紙は A4 判縦長とし、上下左右に各 3cm 程度の余白を設け、11 ポイント程度の字の大きさで 22 字×46 行横書き、二段組みとする。

#### 2. 2 投稿論文の構成

投稿論文の構成は、(1) タイトルページ、(2) 本文（表、図、写真を含む）とする。

### 3. 投稿方法

論文原稿は原則として PDF ファイルにまとめたものを電子メールの添付ファイルとして info@shokuka.jp 宛送付する。やむを得ず印刷原稿として投稿する場合は、原稿の正 1 部副 2 部を食品科学教育協議会会誌編集部へ送付する。

〒567-0851 茨木市真砂 3 丁目 4-30

大阪生物環境科学研究所内

食品科学教育協議会 会誌編集部

### 4. タイトルページの書き方

タイトルページ（和文、英文）の書き方は見本に準ずる。タイトルページには要旨（英文と和文）、キーワード（和、英とも 5 個以内）を記載する。脚注には著者の所属機関と郵便番号、住所を書く。なお、連絡責任者のメールアドレスも付記する。

### 5. 本文の書き方

#### 5. 1 本文の構成

##### 5. 1. 1 報文

構成区分は原則として緒言、実験方法、実験結果、考察（「実験結果及び考察」としてもよい）、まとめ、謝辞（必要な場合）、文献とする。

構成区分中の大見出し、中見出し、小見出しは、それぞれ 1, 2, 3…、(1), (2), (3) …、i), ii), iii) …のように順次区分する。見出し字句の最後にピリオドはつけない。

#### 5. 1. 2 総説および解説

報文に準ずる。

#### 5. 1. 3 ノートおよび速報

構成区分見出しを必要とせず、緒言、大見出し以下の区分で記述する。文献のみは構成区分見出しとする。

#### 5. 1. 4 資料

構成区分等は設けない。

### 5. 2 原稿の書き方

#### 5. 2. 1 文章および文字

文章は和文もしくは英文とする。和文の場合、文章は平易かつ簡潔な「である」調とする。英字、数字は原則として半角とする。

#### 5. 2. 2 専門用語

専門用語は原則として文部科学省学術用語審議会編「学術用語集」による。略語又は記号を用いるときは、最初に用いる箇所ですべて正式名称を書き、かっこ内に略語や記号を示す。

#### 5. 2. 3 化合物名

化合物名は原則として IUPAC（国際純正応用化学連合）命名法に従い日本語で書く。本文中では化学式を用いず、名称を用いて書く。長い化合物の場合は、5.2.2 に準じて略語を用いてもよい。また、化合物の名称として、一般に使用されているものを用いてもよい。

#### 5. 2. 4 外国語の表記

外国の人名、会社名などはアルファベット表記とする。ただし、周知の術語となっている人名はカタカナ書きでもよい。人名には敬称をつけない。

#### 5. 2. 5 図表

本文中に図、表を引用する場合、図、表が英文で書かれている場合は Fig. 1、Table 1 とし、和文で書かれている場合は図 1、表 1 とする。

### 5. 2. 6 物理量の記号と単位

物理量の記号および使用上の規約は、なるべく IUPAC の勧告に従う。付記 1 および「物理化学で用いられる量・単位・記号」(社) 日本化学会標準化専門委員会監修、朽津耕三訳、(講談社サイエンティフィック、東京) (1991)、要約版は、化学と工業、42 (3)、498-506 (1989)。以下「IUPAC 手引き」と略称) を参照する。単位は付記 2 に準拠する。

### 5. 2. 7 動植物名

動植物名は「文部科学省学術用語審議会編：学術用語集—動物編、植物編—大日本図書」「園芸学会編：園芸作物名編—養賢堂」などを参照し、カタカナ書きとする。学名は属 (第 1 文字を大文字とする)、種、変種、亜変種の部分にイタリック書体とする。

### 5. 2. 8 微生物の名称

微生物の名称および用語については「日本細菌学会用語委員会編：最新版英和和英微生物学用語集 (菜根出版、東京都千代田区平河町 1-8-13 和田ビル)」などによる。また、微生物の学名はイタリック書体とする。

### 5. 2. 9 数および数式

数および数式については、付記 3 および 5.2.6 の「IUPAC 手引き」を参照する。

### 5. 2. 10 引用文献

引用文献番号は引用順に通し番号とし、本文中の該当箇所に「<sup>1)</sup> <sup>2)</sup>」、「<sup>1)</sup> ~<sup>3)</sup>」のように上付で指示する。本文の最後に「文献」としてまとめて書く。文献の書き方は付記 4 に従う。引用する文献は直接参照したものに限る。

## 6. 図、写真および表

6. 1 図と表は最小限にとどめ、同一内容のものはいずれか一方とする。

6. 2 グラフの縦軸の説明文字や物理量/単位は下方から上方へ向かって、横軸のそれは左から右へ横書きとする (ただし、目盛りの数字はこの限りではない)。

6. 3 図・写真と表はコンピュータ画面上でも審査可能な鮮明なものとする。また、これらは印刷時により解像度の高いものと差し替えることが可能である。

6. 4 表の題名は、表 1 又は Table 1 として表の上部に、説明などの注記は下部に書く。英文の場合、表題および表中の語句は最初の文字を大文字とし、以下は小文字とする。

6. 5 図、写真の題名は図 1 又は Fig. 1 として図、写真の下部に書く。英文の場合、題名および図、写真中の語句は最初の文字を大文字とし、以下は小文字とする。

### [付記 1] 物理量とその記号

1. 1 物理量の記号は、論文ごとに定義を明示してから用いる。記号はラテン文字又はギリシャ文字の 1 字 (ただし pH は例外) とし、必要な場合に添字 (ラテン文字、ギリシャ文字、アラビア数字、ローマ数字から選ぶ)、その他の記号をつけることができる。

1. 2 物理量の記号は、イタリック体 (斜体) で印刷するが、添字についてはそれ自体が物理量を表すときはイタリック体とし、そうでない場合はローマン体 (立体) とする。

1. 3 物理量の値は、数値と単位の積である。物理量およびそれを表す記号は、特定の単位の採用を意味するものであってはいけない。(例：‘長さを  $l$  とする’は正しいが、‘cm で計った長さを  $l$  とする’は誤りである)

1. 4 物理量の記号は 5.2.6 の「IUPAC 手引き」の 2 章に記載されているものについては、できるだけこれに準拠する。記載されていない物理量の記号は、1.2 の原則に従ってなるべく慣用されているものを用いる。

### [付記 2] 単位および単位記号の書き方

2. 1 現在、単位は国際的に SI [国際単位系を表す記号 (symbol)] であって、略号ではないので、

どの国語でも SI と書く]単位に統一されつつあるので、原則として SI 単位を使用する。

2. 2 単位記号はローマン体（立体）で印刷し、複数を意味する場合でも形を変えてはいけない。また、文末にくるとき以外はピリオドをつけない。
2. 3 接頭語と単位記号の間にはスペースをおかない。
2. 4 2つの単位の積を示すときはセンターピリオドをおく。
2. 5 2つの単位の商はスラッシュ（/）又は割り算の横線（-）、あるいは<sup>-1</sup>で示す。/は決して2回以上使用しない。

#### [付記 3] 数と数式

3. 1 小数点は 0.101 とし、.101 とはしない。
3. 2 けた数の区切りは 5 530 000 とし、5,530,000 としない。
3. 3 積は  $101.325 \times 10^8$  とし、 $101.325 \cdot 10^8$  としない。
3. 4 範囲を示す場合は  $(1.0 \sim 1.5) \times 10^8$  又は  $(25 \pm 0.5) ^\circ\text{C}$  と書く。
3. 5 数学的演算子（d,  $\Delta$  など）および数学的定数（e,  $\pi$ , i など）はローマン体で印刷する。
3. 6 商を表す斜線（/）を用いるとき、混同を避けるためかっこを必要とする。
  - ・  $a+b/c+d$ （ $=a+bc^{-1}+d$  と混同する）とせず、 $(a+b) / (c+d)$  とする。
  - ・  $(a/b) / c$  は  $a/b/c$  としてはならない。
3. 7 二重の添字になる書き方はできる限り避ける。

#### [付記 4] 引用文献の記載法

##### 4. 1 著者名

和文著者名は、姓名共に書き、英文著者名は姓を先にし、次いで first および middle name のイニシャルを書く。著者が複数の場合は、各著者名の間に「,」を入れる。ただし、英文の場合は最後の名前の前は and のみを入れる。

##### 4. 2 論文題名

引用論文の題名を書く。

##### 4. 3 雑誌名

和文雑誌名は原則として略さない。欧文雑誌の略名は原則として最近の国際規格の IS04、およびそれに準拠して ISSN 国際センターが作成する目録マニュアル「ISSN Manual Cataloguing Part」と略語表「List of Title Word Abbreviations」（<http://www.issn.org/2-22661-LTWA-online.php>）に従う。略記形が不明の場合は、略記せずに完全誌名を記述する。

同じ雑誌が連続して引用される場合も‘同上’、‘ibid’ は用いないで繰り返して書く。

##### 4. 4 巻数、頁数、発行年

巻数はボールド体で書く。巻数を表記しない雑誌では、巻数の位置に発行年を西暦で書く。頁数は引用論文の最初と最後の頁数をーで結んで書き、次いで発行年を（ ）で書く。

##### 4. 5 単行本の場合

著者名、章のタイトル、書名、版数、巻数、編集者名、出版社、発行地、頁数（最初と最後）、発行年の順に書く。

##### 4. 6 特許の場合

特許権者または出願者名、題名、特許番号または公告番号、年月日の順に書く。

##### 4. 7 学会講演要旨集等の場合

学会要旨等は原則として引用しない。やむを得ず引用する場合は、講演者名、題名、学会大会資料名、頁数（複数頁の場合は最初と最後の頁数をーで結ぶ）、開催地、開催年の順に書く。

クリスマス島のラグーンから分離した好塩性細菌

森下 新\*、 森下 日出旗

(平成 26 年 1 月 10 日受理)

Bacteria isolated from lagoon in Christmas Island

And their halophilic character

Arata Morishita and Hideki Morishita

*Summary*

(英文要旨 200 words 程度)

*Key words* : (英語 5 個以内)

要旨 : (和文要旨 400 字程度)

キーワード : (日本語 5 個以内)

---

\*連絡責任者・別刷請求先 (corresponding author, E-mail : info@osk3.com)

株式会社 大阪生物環境科学研究所 (567-0851 大阪府茨木市真砂 3 丁目 4-30)

Osaka Institute of Environmental Life Science Inc. 4-30 Masago-3-chome,

Ibaraki, Osaka 567-0851, Japan

Bacterial isolated from lagoon in Christmas Island  
and their halophilic character

Arata Morishita\* and Hideki Morishita

(Accepted Jan. 10. 2014)

要旨 : (和文要旨 400 字程度)

キーワード : (日本語 5 個以内)

*Summary*

(英文要旨 200 words 程度)

*Key words* : (英語 5 個以内)

---

\*Corresponding author, E-mail : info@osk3.com)

Osaka Institute of Environmental Life Science Inc. 4-30 Masago-3-chome,  
Ibaraki, Osaka 567-0851, Japan